

# REPORT

あいちトリエンナーレ2016並行企画事業

## 人類と人形の旅 human with puppet

後編

前号に続き、あいちトリエンナーレ2016並行企画事業「人類と人形の旅 human with puppet」のレポート後半戦。壮大な“旅”の記憶が、永遠のものとなりますように……!

### ひまわりホール 子どもアートフェスティバル2016



2016年10月9日・10日、毎年恒例のフェスティバルが今年も開催されました。今年はいちトリエンナーレ2016並行企画事業「人類と人形の旅 Human With Puppet」の一環として、徹底的に「ファミリーが楽しめるフェスティバル」を企画しました。実行委員がオススメする全国のアマチュア人形劇団をはじめ、P新人賞へ最終ノミネートされた実力派まで、バラエティ豊かな人形劇がそろいました。それ以外にも、東海テレビで活躍する現役アナウンサーによる新聞音読のワークショップ、初めてでも楽しい落語、参加して楽しいダンスワークショップも好評でした。プ

ログラムにはないお楽しみもアートフェスティバルならではの。開演前の各シアター、エントランス、エレベーター…動物に扮したダンサーが神出鬼没に子どもたちを楽しませてくれます。普段は出会わないおもしろいもの、不思議なもの、初めて観るもの、聴くもの…子どもアートフェスティバルは、子どもたちにとってそんな「初めての出会い」があふれるフェスティバルをこれからも目指します。

愛知人形劇センター理事 弓達聡子

### P新人賞2015受賞記念公演 人形劇団望ノ社 『宇宙カバ〜Space Hippo〜』

脚本：Daniel Wishes 演出：矢内世里

昨年P新人賞作品「DEBRIS」に続く第2弾の新作影絵劇。カナダ人と日本人の2名の劇団で今回もエネルギーがピンピン伝わる公演でした。光源をスクリーンの手前側（観客側）から当て、フィギュアを操作。光源は複数使い、手に持って当てる方法も。観客に「裏方」を見せ、それをまたパフォーマンスにしているというユニークさが面白い。深刻な環境汚染により、あと5年で滅亡という地球をなんと、カバが救うべくロケットで打ち上げられるところから始まります。これだけでも、もう掴みはバッチリ。かくして、カバは宇宙で様々な冒険を重ねていきます。とにかく、見どころは満載！ 銀河の色鮮やかさ、エイリアンのコミカルな意匠、テンポのある投影等々。フィギュアはどれも凝っていて、その量の多さに驚かされます。カバは荒れ果てた地球に還り、子のカバに希望は託される……。カナダ人の哀愁あるオリジナルソングもいい効果を出していました。



愛知人形劇センター理事 澤田修一



### ひまわりホールニューウェイヴシアターⅢ 星の女子さん『わらの骨』

作・演出：渡山博崇

### banko『月がきこえる』

演出・出演：banko

『月がきこえる』は愛知人形劇センター主催のP新人賞2013受賞記念で発表した作品、『わらの骨』は2015年の愛知人形劇センター主催企画「劇作家とつくる短編人形劇」で、星の女子さんの渡山博崇の作・演出によって作られた作品。いずれも、ひまわりホールでは再演でした。bankoは人形の頭だけを持って（人形の胴体はbankoの身体を共有）、あるいは上着だけを持って、あとは青を基調とした静かな舞台上に音楽と最小限の言葉。観客は時間と空間を行き来する想像力の旅に誘われました。



星の女子さん『わらの骨』



banko『月がきこえる』

ただ月や地球の造型は、演技に比べるとちょっとチープ。作り手の「現実」が見えるのが惜まれます。『わらの骨』は初演よりもふくらませて、笑える場面が増えていました。人形と人間の関係について、より深い追求があって考えさせられます。アフタートークでbankoさんと渡山さんも言っていました、どちらも人と人形の境界を身体的にあるいは精神的に(?)曖昧にしていこう試みをしていて、観ていてモヤモヤとしたスリリングだったり面白かったです。ただ、その試みが“コンテンポラリー”で受け入れにくいという趣旨の発言をしたお客さんがいらっしゃいました。一般受けしないのかもしれませんが、人形劇の幅広さを知ってもらう意味でも、こういう作品を応援していきたいです。

愛知人形劇センター副理事長 たかはしいちげん

### シンポジウム『人形劇の国際交流』

あいちトリエンナーレ2016並行企画事業、「人類と人形の旅」の最終企画として、人形劇シンポジウム『人形劇の国際交流』を10月16日に開催しました。パネラーには人形劇からくすのき燕さん（日本ウニマ=国際人形劇連盟日本センター会長）、演劇からふじたあさやさん（劇作家・演出家、アシテジ=国際児童青少年舞台芸術協会副会長）をお迎えし、コーディネーターは木村繁（特定非営利活動法人愛知人形劇センター理事長）が動きました。まず日本とカナダの共同製作、人形劇団望ノ社の「宇宙カバ」を観劇し、引き続き人形劇の国際組織ウニマ、児童青少年演劇の国際組織アシテジの現況報告を聞きましたが、いずれもヨーロッパから始まった運動が、今ではアジア・アフリカに移りつつあるという興味深い報告でした。さらに、くすのきさんからはポーランドでの、ふじたさんからはロシアでのご自身の演出や交流の報告があり、また愛知の各芸術団体の海外交流の体験を話してもらいました。人形劇団むすび座の吉田明子さんには韓国における継続的

なフェスティバル参加の報告を、クラウンファミリー・プレジャーBのLONTOさんからはアメリカやエジプトのフェスティバルでの活躍を、ゆめみトランクのゆみだてさとこさんからはインドやインドネシアのアジアレポートを、人形劇団望ノ社の矢内世里さんからはイギリスでの日本とカナダの出会いを報告してもらい、国際交流が予想以上に進んでいることに驚きました。くすのきさんからは、海外劇団との共同製作を進めたいと抱負を、ふじたさんからは、東京オリンピックに向けて、人形劇や児童青少年演劇の国際フェスティバルを日本で開催したいので、ひまわりホールも一翼を担ってほしいとエールを送られました。最後に損害保険ジャパン日本興亜株式会社CSR室長、氏家佳世子さんから、参加者、パネラーの皆さんへの御礼と、今後の抱負を述べられました。

愛知人形劇センター理事長 木村繁



これは日本・ポーランド共同制作「PORY ROKU(四季・ポーランド)」のポスターですね

日本ウニマ=国際人形劇連盟日本センター会長 くすのき燕さん

これから開催するイベントのご案内

## 創ろう! 遊ぼう! パペットパーク ~サファリパーク編~

3月25日(土)・26日(日)  
開園時間: 10:30~15:30  
入場料: 1日600円

いろいろな動物を作ってみよう! 子どもだけでなく、もちろん親子でも、専門スタッフのアドバイスのもと、廃材を利用して動物人形を作ります。人形が出来上がったら、サファリパークに変身した会場で遊んでみよう。サファリパークにあるミッションをクリアすれば、スタンプをもらえます。スタンプを集めて、プレゼントをゲットしよう! 1日ゆくりと、工作の時間、遊びの時間、親子のふれあいの時間を楽しんでいってください!